

2025 No.7



社医学の「いま」がわかる広報誌

H I R B A

作業療法学科昼間部開設記念!

OTの世界へようこそ!

- ▶ P2 OTを目指す理由／活躍する卒業生等
- ▶ P8 教員からPT／OTの卵へのメッセージ
- ▶ P10 クラスメートの横顔



学校法人 日本リハビリテーション学舎

専門学校 **社会医学技術学院**

特

OTの世界へようこそ!

集01

社会的ニーズや期待は高まりながらあまり知られていない作業療法士(OT:Occupational Therapist) 作業療法学科で学ぶ学生や卒業生にその魅力を語ってもらいました

学生
座談会

私たちがOTを目指す理由

作業療法士を志した理由や将来像について、現役学生が本音で語り合いました。



精神面や生活も支援するOTに魅かれて

—まず、皆さんがOTを目指そうと思っ
たきっかけを教えてください。

平野：もともと母の勧めでリハビリテー
ション専門職を考えていて、初めは理学
療法士(PT:Physical Therapist)に
なりたいたって思っていました。しかし、社
医学の学校説明会に参加した際、OTは治
療手段として手工芸などがあると紹介さ
れて、もともとのづくりが好きだった
こともあって自分の特技を生かせる仕事

としてOTを目指そうと思いました。

吉田：私は、救急救命士として消防署で
働いていました。病気になった方を病院
に搬送するたびに、搬送した方がその後
どう生活されているのか気になることが
ありました。そんな時にPTである高校時
代の友人が、身体だけでなく心理や生活
を支援できるOTを勧めてくれて、なりた
いと思うようになりました。

黒木：大学を卒業後、一般企業に就職し

ましたが、大学の進学も就職もなんとなく
周りがそうしているから自分もそうし
ている気がしていて、就職後も自分自身
の人生がこのままでいいのか疑問を感じ
ていました。もやもやする中、OTのこ
とを知って、会社の利益のためだけで
なく目の前の人に一生懸命になれる仕事
としてOTになりたいと思いました。





黒木 茉実さん 作業療法学科夜間部2年
 明治大学卒業後、一般企業に就職したが学生時代にけがをした選手のサポート経験が忘れられず、リハ職を目指す。
 趣味はフルート演奏。



平野 花南さん 作業療法学科夜間部3年
 都立日野高校卒業後、社医学へ入学。
 日中はデイケアで働きながら学んでいる。
 趣味は音楽鑑賞、ホルン演奏、工作。



吉田 典子さん 作業療法学科夜間部2年
 杏林大学卒業後、東京消防庁勤務。救急救命士として働きながらリスキングとしてOTを目指し社医学へ入学。
 趣味はゴルフ、バドミントン、旅行。

——数ある養成校の中で社医学を選んだ理由は何ですか？

黒木：社医学は伝統があるので、OTになってからの就職や実習の選択肢が広いという点がメリットに感じました。また個別見学を申し込んだ際に直接OTの先生が進路の悩みなどを一緒に考えながら

相談に乗ってくれて、安心して学べる環境だと感じて社医学を選びました。

吉田：いくつか専門学校を見学したのですが、他の学校は事務の職員が学校の説明をしていたのに対して、社医学だけ教員の先生に直接説明をしていただけたので、雰囲気をも具体的に感じることができ

たことが決め手となりました。

平野：先ほどお話しした学校説明会の出来事に加えて、社医学は家から近いというのと、都心よりも落ち着いた周辺環境で勉強できると感じて、社医学に決めました。

目の前の人の人生に寄り添えるOTになりたい

——これまでの学習で得られた気付きなどはありますか。

平野：発達の授業で、お子さんに対して行う遊びを取り入れた作業療法プログラムを考える課題があって、べたべたしたものが苦手なお子さんにとって遊べない中で治療的に関わっていくかを考えました。クラスメートと一緒に遊びながら治療の意味や遊びの手段を考えたことが楽しくもあり、勉強にもなりました。

黒木：授業の中で脳卒中後片麻痺の体験があり、ベッドから半分身体をはみ出した状態のまま寝ることで片麻痺の方の身体感覚を体験してみるという経験がありました。ベッドから落ちないように頑張らないといけなくて、実際に患者さんはこんなに怖い感覚なのかと気付かされました。

吉田：普段の食事などの行為を文章で説明する授業があって、何気ない行為を言葉で説明する難しさを実感しました。

平野：直前まで実習があったので実習の経験も印象深かったです。実習中に見



た、一見何気なく行っているような体操や手芸などの作業療法の場面でも、その時の会話の様子などからOTさんが病状を的確に言い当てていました。その際に、OTの視点の広さや深さを改めて意識することができました。

黒木：私も今まで授業で聞いていた言葉であったけど、地域見学で回転寿司店に出かけられるようになるために実際に階段の上り下りをする練習する場面を見て、対象者の生活全体をより良くすることが大切だと改めて考えました。

吉田：地域見学実習を通して、その人らしい生活をするためにはどうしたらいいか考え続けることが大切だと実習指導者がおっしゃっていて、私自身も強く意識するようになりました。

——これからどのようなOTになりたいと思いますか。

平野：小さい頃から人の役に立てる大人になりたいと思っていたので、その人のことを考えてその人のそばで支えられるOTになりたいと思います。

吉田：私は病気を発症して入院した方が、その後どのような過程を経てその後の生活につながっていくのかがわかるよう、病院や介護老人保健施設などで経験を積んでいきたいです。病気になった後のその人らしい生活を支えていければと思います。

黒木：目の前の患者さんに真摯に寄り添うOTの姿勢を、実習や授業のさまざまな分野で学ぶことができました。私自身も目の前の人の人生に寄り添って一生懸命になれるようなOTになればと思っています。

私は、好きなものづくりが生かせるので作業療法士を目指しました。

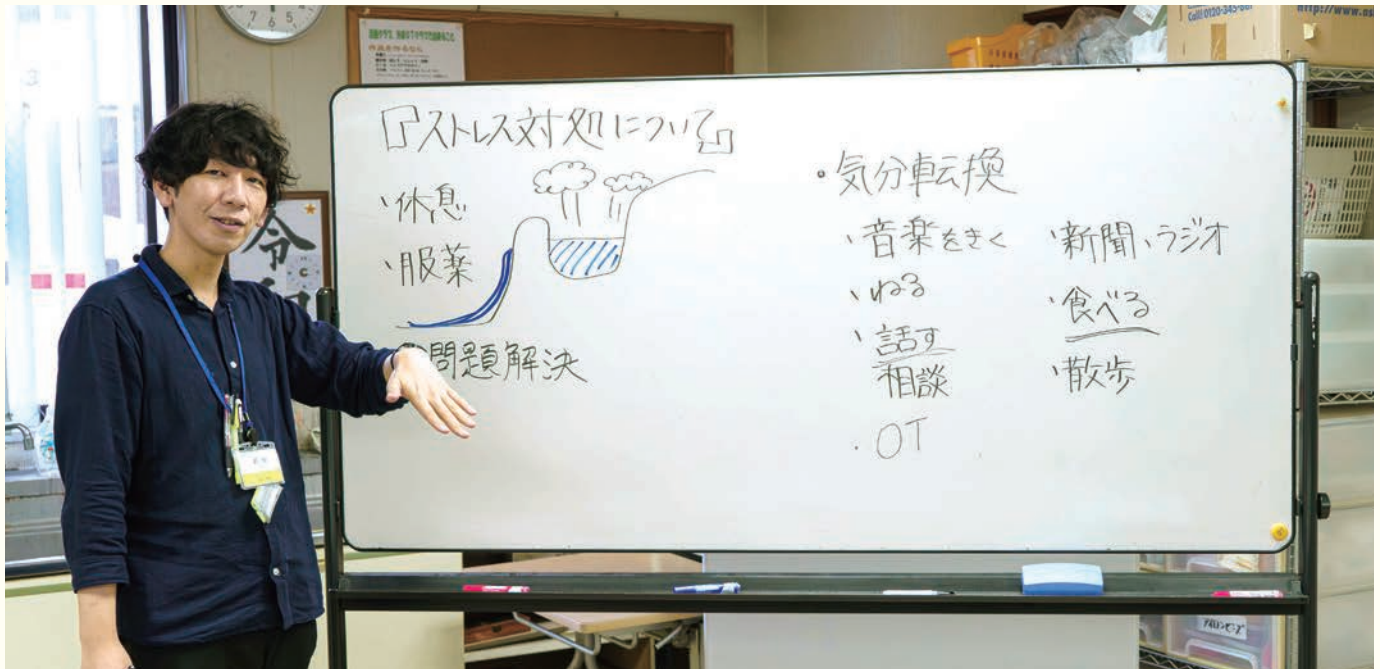
司会進行 作業療法学科 教員 木下輝



OTの魅力×社医学の魅力



作業療法士としての仕事と社医学での学びについて、
各分野で活躍する3名の卒業生に話を聞きました。



その人の人生の選択を支える作業療法を

担任の先生には
いろいろ話を聞いて
もらいました



新納 侑さん

作業療法学科 2020年度卒業
医療法人社団 積信会 長谷川病院勤務

PROFILE

中学のとき、サッカーで大けがをして1年ほどリハビリを受ける。その関わりから作業療法士の存在を知り、働く場所の一つとして精神科領域があることに興味を覚える。

社医学卒業後、精神科病院の長谷川病院に就職。勤め始めて4年、仕事の幅が広がる中、今は認定作業療法士を目指している。「10年後、こんなことができる作業療法士ですって、言えるようになりたいですね」

現在、精神科の病院に勤務しており、主に精神疾患のある方や認知症の方で入院されている方を対象に、病棟での作業療法を行っています。

病院にはアルコール依存症や認知症などさまざまな病棟があって、午前と午後でそれぞれの病棟で患者さんの状態に応じた作業療法プログラムを行っています。

精神疾患といっても病気や障害によって状態はさまざま、例えば急性期では患者さん自身の身体や心の感覚を意識してもらうようなリラクゼーションや運動などのプログラムを行います。他方、回復期などであれば集団での手工芸など他者との関係性を取り戻すようなプログラムがあります。その中でも特に心理教育では、認知行動療法という治療法を中心とした教育プログラムを行っており、私自身が司会として実施したりしています。

病気によって入院した方が、退院した後にご自身の身体や心の状態に合わせて生活を維持できるようになるためには、

一人一人が自分自身の人生に向き合ったり、その時々での人生の選択をうまくできるように支援していくことが重要です。入院中の作業療法でもこうしたことを念頭に置きながら患者さんと関わっています。

私自身、社医学で学ぶ前に家庭の事情で大学を中退して社会人として仕事をしていたのですが、その時に頭を悩ました経験や、学生時代の授業で行った面接練習の経験など、今の仕事で患者さんやスタッフと関わる際に生かしていると思っています(談)。

社医学のふくろう祭(文化祭)にて、学校行事に社会人になってから参加するのは新鮮でした(写真中央左)。



利用者さんの働く姿を見ることがこの仕事の醍醐味

現在、精神疾患や障害がある方の就労支援や就職後の生活をサポートする、障害福祉サービス事業所で働いています。

一般的な就労支援は、就労前に週5日事業所に通い、集団でトレーニングを受けることが勧められています。けれど、集団で何かをすることや、定期的に通うことが苦手な方も少なくありません。ここでは「早く現場に出て仕事に慣れるモデル」に基づいた個別就労支援プログラム（IPS: Individual Placement and Support）を実践しています。

利用者さん本人が働きたいと思い立ったら、グループでの訓練や一定の準備期間を設けずにニーズに合わせた就職活動のサポートをすぐに開始します。希望する就職先や必要としているスキルを聞き取り、一緒に就労計画を立てていきます。



社医学の体育祭のときの1枚。バスケの試合に出ることが急遽決まり、ジャージを借りて出場しました（写真左）

働くことがある暮らしが継続できるよう、就労後も仕事や生活面の困りごとの相談に乗っています。

利用者さんが自分で選んだ職場で働いている姿を見たり、働くことによって生活が充実しているという話を聞いたりすると、この仕事の醍醐味を感じます。

そもそも就労支援は、社医学の学生のと看から興味がありました。病院の作業療法室でアルバイトをしていたとき、仲良くしてもらった患者さんが退院後に外来で再会すると、働く所がないと嘆いていました。それから患者さんの退院後の動向が気になり、地域でサポートできることはないか、考えるようになりました。

なので卒業後は、福祉サービスの事業所に就職しました。病院ではなく、地域に飛び出し、地域で学んできました。ただ、目標には向かっているけれど、自分に合った職場を探すことの難しさも経験しました。

利用者さんをサポートしていくうえで、社医学での学びが生きていると感ることがあります。いろいろな年代の同級生との関わりだったり、授業で学んだ面接の技法や観察のポイントが、利用者さんの強みを引き出す聞き方につながったり…。私がOTを目指したのは「その人



体自分の経験が今の仕事に活かされています

建石 幸子さん

作業療学科 2014年度卒業
一般社団法人ルンアルン勤務

PROFILE

社医学に入る前は介護職として働いていたが医療的な知識も蓄えたく、作業療法士を目指す。卒業後は、障害福祉サービスの就労継続支援B型や生活訓練等に従事。2019年から現職。

取材当日のワンピースは、利用者さんが働くアパレルショップで勧められて購入したもの。

「地域に溶け込んで働く姿を見ると、労働者同士、頑張ろうって思います」

の可能性を引き出したい」思いからだったので、今の仕事にすべてつながっていると思います（談）。





作業療法を通して社会復帰・地域生活への定着を支援

司法領域における
作業療法士の役割に
興味を持ちました



林 稚憲さん

作業療法学科 2008年度卒業
府中刑務所勤務

PROFILE

高校時代は柔道一筋。理学療法士を目指すのが作業療法士に転向。「社医学の良さは、アルバイト先で起きた臨床での困りごとを先生や先輩にぶつけて解決できること。体育祭や学科独自の行事も楽しい思い出で、書籍等では得られない知識や経験の範囲が広がりました」。

刑務所では「機能向上作業」の立ち上げから参画。マシンや作業内容の選定にも携わった。

現在、府中刑務所処遇部作業部門に配属されています。

私が働く作業部門とは、主に刑務作業を担当する部署です。懲役受刑者には刑務作業が原則義務付けられており、作業には木工や洋裁、炊事、施設設備の修理、出所後の生活を見据えた職業訓練等があります。しかし、これらの作業に就くことが難しく、刑務所生活に困難さを抱えた高齢者や障害のある受刑者が年々増加しているのが現状です。

そのため、府中刑務所では認知および身体機能の維持・向上を図る「機能向上作業」という取り組みを2020年度から取り入れました。折紙等の製作作業や脳トレを用いた認知機能の維持・向上、マシン等を使った筋力トレーニングで身体機能の維持・向上を図ります。私は受刑者とコミュニケーションを取りながら、体調や特性に合わせたメニューを組むほか、さまざまな専門職員と協働しながら機能向上作業を運用し、OTならではの

関わりを行っています。

刑務所の前は精神科病院に勤め、デイケアや訪問看護等、地域の中で働いていました。精神状態が悪化し、傷害事件を起こしてしまった患者さんと接することがあり、社会復帰や地域生活へ定着するには、早期からの重点的なケアが必要なことを痛感しました。司法領域におけるOTの役割に興味を持ったきっかけです。

その芽は、社医学の学生時代から生まれていました。学院で司法分野の作業療法の最前線で働いている先生の授業があり「こんなに興味深い分野があるんだ」と、感銘を受けました。社会人になってからもその熱は冷めず、司法分野の勉強会に参加するようになり、さまざまな出会いやご指導をいただき、府中刑務所の募集を見つけ、今に至っています。

病院でも刑務所でも対象者は異なるけれど出口支援を意識するのは一緒。日本で最も大きいこの刑務所で働くことは学びが多く、やりがいを感じています(談)。

新たな昼間部においても *Message* 未来を支える人材育成に注力



作業療法学科長 河野 達哉

作業療法士は日常生活で取り組まれるさまざまな作業・活動を利用して治療的関わりを行う専門職です。日本では1965年に身分法として制定され誕生しました。2025年で60年目を迎え、これまで道を切り開いてこられた諸先輩方のおかげで、多くの作業療法士が職域の拡大とともに保健・医療・福祉・教育の現場で活躍しています。

当学院の作業療法学科は1980年に夜間部として開設し、その年、第1期生が入学しました。今年度で44期生を迎えましたが、2025年度以降は昼間部へ移行するため、夜間部は募集を停止

することになりました。

夜間部の作業療法学科を閉じることは、さまざまな角度から時間を掛けて検討を重ねました。私自身が当学科の3期生であることから、夜間部の役割は大きかったと実感しています。

昼間部に移行しても夜間部同様、社会に貢献し得る人材育成に全力で力を注いでまいります。

豊富な臨床経験を持つ作業療法学科の教員は、個性豊かで、身体系(老年期も含む)、発達系、精神系の領域で携わり、利用者のニーズに応じるために専門的スキルを磨いてきました。事例を

通し臨場感を持って在學生に作業療法の実践を教示し、治療・援助について深め合っています。

さらに、国家試験合格のための社会学版サクセスロードマップを提示し、この2年は連続で100%の合格率を達成しています。これは学生と教職員が一体となって目標に向かった結果と自負しています。

このように、一人も置き去りにしないために、教職員一同、皆様のサポートに徹していきたいと思っています。

作業療法学科の在校生アンケート

こんなOTになるんだっ!



作業療法学科 在籍の皆さんに「将来なりたい作業療法士像」を聞きましたっ!

この人となり頑張れると思っ
てもらえるOT
1年 ピーさん

「スペシャリスト」で「ジェネ
ラリスト」な OT になり、
人間の生涯発達を支援します!
3年 2525さん

筋電義手のリハビリの
スペシャリストに!
4年 ヨッツ・デ・マングローブ

どんなときでも患者さんの
最善を考えられる OT
2年 よもぎさん

穏やかな時間を提供できる
作業療法士になりたい!
4年 バイクリートさん

クライアントの趣味を
諦めさせない OT
1年 まだおさん

まだわかりません!
可能性は無限大です!
3年 T.Yさん

ものづくりやもの
使用を通して人ができることを
増やしていきたいOT
1年 アラームさん



特02

\\ PT・OTの卵へのMessage //

集

あの**失敗**があって**今**がある!

理学療法士(PT)・作業療法士(OT)に成り立て頃の失敗とその経験がどう生きたか、社医学教員に聞いてみました。
これからPT・OTを目指す人に役立つこと、間違いなし!



01

作業療法学科
木下 輝

Hikaru Kinoshita

人と思っていたのに

入職してすぐ担当した左半側空間無視のある車椅子の患者さん、片手片足駆動だとどうしても右側に寄ってしまい、ぶつかる様子が見られました。なんとか左側への注意を引き付けたいと思い、正面から手を振ったり声をかけていましたが、ふとその方が「私は猿か」とボソッと呟いているのが聞こえてきました。

その時に私が良かれと思っていた振る舞いが、その方の自尊心を傷つけたこと、対象者への配慮が欠けていたことに気付かされました。高次脳機能障害や認知症があるからと枠にはめて疎かにしてしまうこともあると思います。まずは対象者の話をじっくり聞くこと、そこから本人がどうしたいと感じているのか、主観的な世界を理解することが重要だと気付かされたきっかけでした。



02

理学療法学科
林 佑樹

Yuki Hayashi

こぼれる信頼

いつも決まった曜日・時間に理学療法を実施する入院患者さんを担当しており、ある時、他の患者さんとの兼ね合いで行けない日がありました。

次回訪室すると「もう来なくていいよ」と言われてしまい、事情を説明し謝罪することでなんとか担当継続となりました。

こちらの勤務都合は患者さんにとっては関係なく、患者さんとの約束を守ること、事情があれば必ず説明して了承を得ることで信頼を築いていくことの大切さを学びました。理学療法士の仕事は対人仕事であり、いくら知識技術があっても信頼関係が無いと成り立ちません。一人の「人」に寄り添い支える、やりがいの大きな仕事です。

理学療法士は素敵な仕事です。



作業療法学科

河野 達哉

Tatsuya Kohno

03

声なき声を聴く

精神科病院に入職後2、3年目頃、担当の患者さんが具合悪くなり攻撃的な発言をし始めました。普段から関わっていた私は、患者さんの状況を聞きたくてイライラしているその人に話しかけました。その時「あなたは、何をしてくれているんだ!」「何もしていないじゃないか!」と強く叱責されました。患者さんのつらそうな表情と罵声に近い悲痛な声は、今でも記憶に残っています。関係が築けているというこちらの勝手な思い込み、思い上がり、何とかしてあげたいという同情の押し付け、きちんと評価して情報収集をする前に、安易に声かけをしてしまったことなど、反省は募るばかりでした。

私たちは医療という枠の中で守られて患者さんと接しています。患者さんは私たちに気を遣ってくれています。声なき声をいかに聴けるか、受け止められるか、将来指名されるセラピストを目指して努力していきましょう。

04

作業療法学科

並木 秀樹

Hidaki Namiki



伝える言葉とは

高齢者施設で働いていた時に、患者さんをトイレ誘導しました。「お手洗いにいきましょう」。患者さんは頷いてトイレに付いてきましたが、到着するなり、便座にたまっている水で手を洗い始めました。

最初は「認知症のある方だから…」で済ませていましたが、よくよく考えると、「お手洗いにいきましょう」の言葉がよくなかったのではと気づき「ご不浄に行きましょう」「雪隠に行きましょう」「厠に行きましょう」「お便所に行きましょう」など、さまざまな表現方法を試すようにしてみました。

すると、言葉を変えることでちゃんと小用を済ませることができたのです。私たちが使っている言葉がうまく伝わらないために、できることもできなくなってしまうことがあるんだと自覚した出来事です。

05

理学療法学科

藤川 明代

Akiyo Fujikawa



「あなたでは治せない」

自分が担当していた患者さんの痛みがなかなか取れず、ついには「一生懸命治療をしてくれているのはわかるけど、あなたでは治せない」と言われ、その患者さんは痛みの専門病院に行くことになりました。その時に自分の知識と技術のなさ、また痛みを取ることは簡単ではないということを実感。その経験からより研鑽を積むようになりました。その後、偶然その患者さんに会うことがあり、痛みが取れたことを聞きました。患者さんから「あの時は一生懸命向き合ってくれてありがとう」と言われたときは、申し訳ない気持ちと次は自分が治したいと改めて思いました。

患者さんを治す、良くするという事は簡単ではないので、自分でしっかりと考え抜く力が必要だと実感しました。ただ知識を入れるだけではなく、そこから原因を追及し、改善方法を考え抜くことが大切であると学びました。

OT・PT目指すなら、これだけは抑えとけ! 10選



01.アイの物語

作業療法学科 並木秀樹(小説)

02.脳を鍛えるには運動しかない!

最新科学でわかった脳細胞の増やし方
作業療法学科 河野 崇(自己啓発書)

03.レナードの朝

理学療法学科 森田 浩章&山本 千夏(映画)

04.リハビリの心と力

かかわることで学んだ輝く命のStory
理学療法学科 坂田 晋一(エッセイ)

05.あんたは名医だ

PTとして、医師として、しなやかに向き合う命
理学療法学科 坂田 晋一(エッセイ)

06.フラジャイル

病理医岸京一郎の所見
理学療法学科 福田 崇(漫画)

07.ケアを紡いで

作業療法学科 木下 輝(映画)

08.左足をとりもどすまで

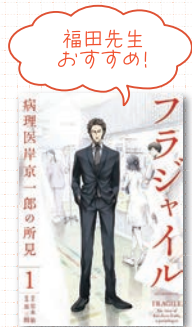
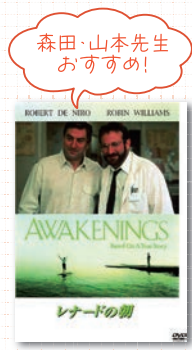
理学療法学科 沼尾 拓(エッセイ)

09.海と毒薬

理学療法学科 小林 規彦(小説)

10.ベイマックス

理学療法学科 長屋 説(映画)



クラスメートの横顔

さまざまな年代や経歴を持つ学生が机を並べる当学院。
そんなクラスメートの横顔を紹介します。



高校生のとき、自転車競技で大活躍した富増さん。 理学療法士を目指すきっかけを聞きました。

—これまでのスポーツ経験について教えてください。

幼稚園のとき、運動会のかけっこで負けたことがくやしくて、陸上競技経験者の父に特訓をお願いしました。功を奏して小学校では駅伝で区間賞を取り、中学に入ったら陸上部の顧問にスカウトされ、800mの選手として活動していました。

同時に東京都の「トップアスリート発掘・育成事業」に応募し選抜されました。そのプログラムの中で自転車競技への適性を見出され、自転車競技ができる高校へ進学しました。

都の大会では全学年で1位を記録し、全国大会にも出場しました。

「富増」は、富増城を構える伊賀忍者の末裔です。先祖代々、体力には自信があります。

—すごいですね。自転車競技ではプロへ進む道も見える中、理学療法士を選んだのは？

けがで競技ができなかったとき、仲のよい先輩が自転車競技の練習中に事故で亡くなったり、父も自転車乗車中、事故にあったりと、周囲を支えることを

高校2年のとき秋の関東大会に出場。
表彰台上りました。



理学療法学科
昼間部3年生
富増 珠江さん



経験しました。競技大会のメディカルサポートで知り合った理学療法士に情報交換や相談を重ねたことで、理学療法士を目指すようになりました。

社医学は、高校の先生の“ゴリ押し”です(笑)。実際にオープンキャンパスに行ったら先生方との話が楽しく、何回も足を運び、つながりができたことで進学しました。

—学校生活はどうか。

楽しいの一言です！ けれど、高校ではスポーツを言い訳に学業を疎かにしてきたので、勉強は大変です！

そこで私の評価軸であるスポーツを活用し、勉強をスポーツと捉えました。負けず嫌いの精神で修業を重ね、スポーツ同様の達成感を得ることで乗り越えられました。さらに学院のランニングサークルでみんなと走っていれば、ストレスもなくなります。

—どんな理学療法士になりたいですか。

自転車競技連盟でのコーチ活動を継続し、経験を重ねていきたい。

中学の陸上部の顧問の先生が「大丈夫です」が口癖の私の、本当の調子を上手に引き出してくれました。私もその人の本当の思いを引き出して支えられる人になりたいです。

成人式では
新成人代表で
抱負を述べました。



30歳まで野球人生を送ってきた菊沢さん。 どんな理学療法士を目指しているのでしょうか。

——まず、野球との関わりを教えてください。

野球は、小学校4年のときに始めました。高校2年のとき外野の守備中に大腿骨骨幹部を骨折しリハビリを経験しました。最終学年では投手として県大会に出場しましたが準決勝で敗退し、目標だった甲子園には出られませんでした。

卒業後は東京六大学野球でのプレーを目指して立教大学へ進学しました。けれど3年生のときミー・ジョン手術をしたのでしばらく投げることができず、社会人野球に進むことをあきらめていました。でも「けがは怖くない。けがは治る」、その信念でリハビリを2年続け、クラブチームに入団しました。

——その後、カリフォルニアの野球チームと契約し、プレーされました。

「英語はできなくても野球はできる」と思って頑張りました。帰国後、引退するつもりで所属したチームで全国大会準優勝を果たし、28歳で東京ヤクルトスワローズに入団しました。ルーキーだったので見てもらうことを意識しすぎてしまい練習に力が入り、けがが相次ぎました。自分の身体をイメージ通りに動かせる練習をしていればよかったと思います。

——理学療法士を目指したきっかけは？

リハビリをすることで、球速が130km/hから140km/hに上がったり、けがをする前よりパ

東京ヤクルトスワローズのピッチャーとしてマウンドに立つ菊沢さん。



理学療法学科
夜間部4年生
菊沢 竜佑さん



フォーマンスが向上したりということを経験しました。けがを重ねても競技に復帰し続けることができたのは、理学療法士が新たな発見と気づきをしてくれたおかげです。自分もそうありたいと思って、野球界を引退した3年後に社医学へ入学しました。

——入学後はどんな感じですか。勉強についても教えてください。

入学前は自分が年長かと思っていましたが、年上の方が多くて、何かできなくても年齢を言い訳にできないと思いました。クラスメートは年齢だけでなくバラエティに富んでいて面白いし、気軽に声をかけてくれるのでありがたいです。

勉強は、昼間病院で働いているので、学校への移動時間の中で行っています。コツコツ積み上げてきたせいか、8月に行った国家試験模試はよい成績が取れました。

——学校生活ではどんな思い出がありますか。

6月に行う体育祭が挙げられます。人数合わせでバレーや綱引きに参加したところ、優勝してしまいました。この歳でもう一度学校行事に参加すること自体が新鮮でした。

コロナ禍でソーシャルディスタンスを守りながらキャッチボールをしたこともいい思い出です。クラスメートと深めた仲は、今後も大切にしていきたいと思っています。



2025年4月
作業療法学科昼間部始動!



社医学マスコット
「しゃいまる」

広報誌 「社医学ひろば」 2025年NO.7

発行 学校法人 日本リハビリテーション学舎
東京都小金井市中町2丁目22番32号
TEL 042-384-1030
FAX 042-385-0118

発行人 山田千鶴子

発行日 2025年1月

